第４学年１組　道徳科学習指導案

１　主題名　みんなが使う場所で〔内容項目C－（１１）：規則の尊重〕

　　＜教材名「このままにしていたら」＞出典：「きみがいちばんひかるとき道徳４年」光村図書

２　ねらいとする価値について

　　児童が成長することは、所属する集団や社会を構成する一員として、その場におけるさまざまな規範を身につけていくことである。その過程で、約束や法、きまりをすすんで守ろうとする意識を高めていくことは重要である。一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまり、公共物や公共の場所との関わりについて考えることで、相手や周りの人の立場に立ち、よりよい人間関係を築くことや、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分に考えることが必要であると考える。

３　子供の姿

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 家庭や地域と連携した教科学習計画 | | |
| 月 | 教科 | 内容 |
| ６  ９  10  11  12  １  ２ | 総合  社会  総合  道徳  道徳  総合  総合  道徳  道徳  総合  道徳  総合 | ビオトープの生き物観察  水の循環  シンパシーワークショップ  「ぼくたちのばら花だん」  B（７）感謝  「祭りだいこ」  Ⅽ（16）国や郷土を愛する態度  学習発表会  「わたしたちの学校」  エコアクション講座  「このままにしていたら」  C（１１）規則の尊重  「琵琶湖のごみ拾い」  C（１３）公共の精神  エコアクション  「朝がくると」  B（７）感謝  エコトークセッション |

　　本学級の児童は、学級のきまりを守らなければいけないと分かっている児童が多い。廊下を走っている上級生に対して注意をしたり、友達に声をかけたりすることができる。しかし、なぜきまりを守らないといけないのかについて「きまりだから」「先生に怒られるから」という捉え方をしている児童もおり、遊びに夢中になってしまい、きまりを守ろうとする意識が薄れてしまうときもある。

４　教材と指導について

　　主人公の「ぼく」は自然観察での約束を知っていたにも関わらず、自分勝手な判断で、それを破ってしまう。このような「ぼく」の心の弱さを否定的にとらえることは簡単だが、実際に自分のこれまでの行動と照らし合わせてみると、誰もが同じような経験をしているだろう。「ぼく」の行動をやみくもに非難するのではなく、このような弱さが誰にでもあることを共感的に受け止めたうえで、公共の場における約束の意義について考えさせていきたい。

５　地域と連携した学習

　　自然豊かな本校区には、本教材と似たような小川がある。生き物観察にも意欲的に取り組んだり、飼育や栽培したりすることが好きな児童が多い。１年を通して、企業連携「環境学習プログラム」を受講し、身近な水辺の自然について学んでいる。１０月には、社会科や環境学習で学んだ本校区のごみと水について、調べたことを発表した。本時できまりについて考えながら、「環境学習」と結び付け、地域の自然、環境を大切にしていくために、自分たちができることを考える気持ちを高めたい。

６　本時の学習

（１）本時のねらい

　　　　登場人物の行動と気持ちに注目し、「ぼく」の心の変化をとらえることで、公共の場での

　　　きまりを守ろうとする気持ちを高める。

（２）本時の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 児童の活動 | 〇伝え合うための工夫  ・その他の手立てや留意点 |
| つかむ（５） | １　学校の周りの公共の場を思い出す。  ・ふれあいの道がある。  ・家の近くにみんなが使う公民館があるよ。  ２　本時のめあてをつかむ。 | 〇公共の場を具体的にイメージできるように、「ふれあいの道」の写真を提示する。  （導入の工夫）  「みんなの場所」を利用するときに大切なことを考えよう |
| 深める（　　）  ３０ | ３「このままにしていたら」（P６１、８行目まで）を読んで、話し合う。  ビニール袋が飛んでいったとき、「ぼく」はどうしてまあいいやと思ったのか。  ・しかけ作りを続けたかったから。  ・拾いに行くのが面倒だから。  ・ビニール袋1枚くらい、いいと思ったから。  ・ほかの人もやっていそうだから。  ４　続きを読んで、話し合う。  立て札の文字がどんどん大きくなってくるような気がしたとき、「ぼく」はどんなことを考えたのか。  ・ぼくに言われている言葉だと思った。  ・友達にけがをさせるところだった。  ・すぐに拾いに行けばよかった。  ・約束を知っていたのに守らなかった自分が悪い。  ・これからは使う人みんなできまりを守りたい。 | ・状況を捉えた登場人物の様子や「ぼく」の心情を想像できるように、話を前半と後半に分けて話したり、ペープサートを活用したりする。  ・「ぼく」の気持ちを考えやすくするために、看板の文字が大きくなってくるような気がしたときの「ぼく」の気持ちを吹き出しに書き込む。  〇「一人一人が意識して全員できまりを守っていきたい」という気持ちへつなげるために、「ゆうたくんやたっくんはザリガニ釣りに来たのに、どうしてごみ拾いをした？」と補助発問をする。  （話し合いを深める工夫） |
| 振り返る（　　）  1０ | ５　みんなの場所を利用するときに大切だと思うことをワークシートに書き、発表する。  ・ごみがあったら、生き物にとってよくないから捨てておく。  ・みんなが気持ちよく使えるように、みんなが使う場所はきれいに使う。  ・みんなが使う場所は、みんなが気持ちよく使えるように、きまりを守りたい。 | 〇友達の意見や授業の内容から、どんな心をもって過ごしていけばいいか、きまりを守ることの意義を一般化して捉えて、振り返りを書く。  （振り返りの視点） |